

## 「子宮頸がん合併妊娠」の患者との関わりを通して ～患者の意思の尊重と医療者としての想い～

五百路夏生

**要旨：** 娠初期に子宮頸がん合併妊娠と診断をうけて28週より管理入院をしていた。帝王切開を行い治療開始の時期や必要性を、主治医を交えながら相談していったが、最終的に本人は民間療法を信じ治療を拒否された。その関わりを振り返り、信頼関係の構築の必要性や、患者の意思の尊重などの看護について考察した。

**キーワード：** 子宮頸がん合併妊娠、民間療法、意思の尊重、医療者の想い

### I. はじめに

子宮頸がんは20～30歳代の女性における悪性腫瘍罹患率1位であり、妊娠・出産の高齢化で、悪性腫瘍の中で妊娠に合併することが最も多い。<sup>1)</sup> また、妊娠初期の検査でがんスクリーニングを行うこともあり、子宮頸がん合併妊娠は増加傾向にある。

がんと診断された妊婦は、妊娠の継続・出産・育児と治療や療養場所の選択など様々な意思決定がもとめられ、看護師は意思決定を行う患者の迷いや想いを受け止めて支えていく必要がある。<sup>2)</sup>

以前、妊娠初期に子宮頸がんと診断された妊婦を受け持ち関わっていた。患者自身が民間療法も信じていることや、子育てを優先したいという思いが強く、治療をするか迷っている状況であった。その中で、治療の必要性を話し勧めていたが、最終的に治療が必要な状況にもかかわらず拒否された。

そこで本事例では、妊娠初期に子宮頸がんと診断された妊婦に対して、患者本人も治療に対して悩んでいる中で看護師としての声掛けなどの対応や、最終的に治療を拒否した際の看護師としての思いの伝え方や気持ちの整理の仕方などを振り返り、課題を明確にする。

### II. 事例紹介

対 象：O氏 36歳 初産  
既 往 歴：アトピー性アレルギー  
家族構成：夫（54） と2人暮らし  
県外離島在住  
実両親他界、兄弟とは疎遠状態  
職 業：民宿を自営業、さとうきび栽培  
診 断 名：子宮頸がん合併妊娠  
ス メ ア：class V、パンチ：CIS2

#### 【事例背景】

##### 1. 入院までの経過

妊娠初期の子宮頸がん検査で精査が必要となり、妊娠25週で当院を紹介され受診、検査の結果「子宮頸がん合併妊娠」と確定する。妊娠29週より管理目的にて当院入院となる。

##### 2. 入院中の経過 ～妊娠中～

入院後、検査を再度行う。妊娠中は症状悪化することなく経過。本人・夫・主治医・NICU医師も交え面談を繰り返しながら、治療の方針・帝王切開の時期を決定。34週で帝王切開を施行する。児はNICUへ入院。

##### 3. 入院中の経過 ～産褥～

再度検査を行い、やはり治療が必要な状況であり

治療をすすめるも、民間療法を望み、育児を優先したいという思いが強く治療を拒否。産褥18日目に母子ともに退院となる。

### Ⅲ. 看護展開

#### 1. 看護問題

# 1 非効果的治療計画管理

#### 2. 目標

看護目標：本人が納得し、治療に参加することができる

患者目標：自分の想いを表出し、病気について考えることができる

#### 3. 看護計画

別紙1参照

### Ⅳ. 実施および評価

別紙1参照

### Ⅴ. 考察

意思決定を行う患者は希望や迷いなど複雑な気持ちを抱いており、看護師は日常の関わりを通して気持ちや想いを把握し、患者が自分の想いにしたがって行った意思決定であるのかどうか知ることが必要である。今回Oさんとの関わりでも、受け持ちや妊娠・分娩・産褥の指導などを通して関わっていく中で信頼関係を築いていき、治療に対する混乱や動揺、児に対する愛着などの本人の正直な気持ちを聞き、何が必要か考えることができた。これより信頼関係を築いた中で患者の素直な気持ちを引き出すことが、その都度どのような関わりが良いか考えることにつながると感じた。

また瀬沼らは「患者がどのような意思決定をしても、看護師は自分の価値観にとらわれることなく、その患者の意思決定を尊重して支えていく必要がある」と述べている。本事例では患者が以前より信じてきた民間療法と同時に治療を進めていくことを伝え続けたが、最終的には患者の想いを尊重し治療には至らなかった。Oさんとの関わりの中、「治療を勧めることはOさんの気持ちを否定することにつな

がるのではないか」「民間療法を信じるのが本人の精神的な支えともなり、本人の気持ちを否定すると信頼関係も崩れる可能性があるのではないか」という思いがあり、最初は治療を強く勧める声掛けが出来なかった。しかし、先輩から指導を受け、関わりを通し「Oさんに助かってほしい」という思いとともに、医療者としてしっかり伝えるべきことは伝えることも役割の1つだと感じた。その中でも治療を始めるには患者の同意が前提であり、患者のどんな思いも否定せず尊重していきながら関わることも必要であることを学んだ。また関わっている中で、治療について迷っている気持ちや、混乱している思い、感傷的になっている様子がうかがえた。入院生活が長引いたり、検査・治療を行っていく中で患者さんの気持ちは変化していくものであり、本人の気持ちの段階を考えた上での関わり方が必要になっていくことも学んだ。

また、Oさんはがん患者という立場だけではなく、母親という新たな役割を獲得する段階でもあった。このため病気のことだけでなく、「母乳をあげたい」「小さいときこそできるだけ傍で子育てをしたい。」という思いを持っていた。その複雑な気持ちを理解しつつも、治療と並行でできるだけ近くで子育てしていける環境をみつけていくことも必要だと感じた。

今回の関わりの中で課題を見出すことができた。本人の様子から夫の気持ちを直接聞くことが出来なかったが、夫の正直な気持ちを聞き、本人に伝えることで本人の気持ちに変化があったのではないかと考えられる。そして夫の考えや不安を聞き、不安軽減などに努める必要もあったと考える。また、入院中は産科・NICUスタッフのみの関わりであったが、がんを発症したという複雑な思いに対しての関わり方をがん認定看護師に聞くことで異なる関わりもできたのではないかと考える。

### Ⅵ. 結語

\* 信頼関係を築いたうえで、本人の正直な気持ちを引き出すことが大切

\* 治療を拒否する本人の気持ちを否定しないも、医

療者として治療の必要性は伝えていく

\* 母親という立場とがん患者としての想いを理解し、自身を責めないように伝える

\* 必要に応じてスタッフ間での情報共有が大切

## Ⅶ. 謝辞

本研究にご協力頂いたOさん、研究へご指導・助言をくださった先輩スタッフの方、その他ご協力いただいた方々に感謝いたします。

## 引用・参考文献

1. 井上 裕美他：病気がみえる⑨ 婦人科・乳腺外科
2. 瀬沼 麻衣子他：がん患者の意思決定に関する研究の動向と課題、群馬保健学紀要 33、19-28 2012
3. 渡辺美千代他：意思決定を支える看護師の役割葛藤に関する看護倫理的考察—ナラティブからの現象学的方法による分析、医療・生命と倫理・社会 3 (2)

IV. 実施および評価

別紙 1

# 1 非効果的治療計画管理

	本人の想い	医療者としての想い・実施
12/18 (妊娠 29w)	検査の結果→細胞診：クラスV、組織診：C I S、腫瘍マーカー：25 主治医より I C①：治療の方針や帝王切開の予定について	
1/14 (妊娠 33週 1日) ● 治療について	S) (治療をするかどうか) 迷っています。見えないパワーのようなもの信じたりしますか？ 実は、見えないパワーを送って、病気とかを治してくれる人がいるんです。今も実際パワーを送ってもらっています。20年もその人を信じてて…でも先生(主治医)はとっても良い人で、赤ちゃんも私も助けようとしてくれているので、本当に迷っています。 O) 自然療法を受け入れてもらえるか、不安な様子で上記弁を話される。	A) 自らの病気についてや治療の必要性は理解しているも、長年信じてきた民間療法を望む気持ちもあり、本人の中でも迷っている様子。病気を治すためには医学的な治療が必要。しかし自然療法を信じるのが、本人の精神的な支えともなり、本人の気持ちを否定すると信頼関係も崩れる可能性がある。 P) 自然療法を否定せず、本人の気持ちを傾聴しながらも、治療の必要性を再度伝えていく必要がある。
1/14 (妊娠 33週 1日) ● 早産について	S) 36週まで持たせたい気持ちは消えないと思うけど、34週で産むことは決めました。 今一番不安なことは、早産で生まれることで赤ちゃんが病気にかかりやすくなってしまうことです。島には常駐の小児科の先生がいないから、もし何かあったときに、台風で船も飛行機も出なくて赤ちゃんに何かあったら…赤ちゃんには罪はないし。 悪いのは私で、赤ちゃんは何にも悪くないのに、早産で産んでしまうことが本当に申し訳ない。 O) 涙を流されながら上記弁語られる。	A) 早産になることについて自責の念があり、児に対して申し訳なく思う気持ちが強い。早産についても自ら調べ、離島特有の特徴も理解しており、児が病気になったときなどの不安も大きい。 P) 早産になることはOさんの責任ではないため、自分を責めないよう伝え、赤ちゃんとお母さんがどちらにとっても最良の時期・方法で決めていくことが大切なことを伝える。
1/14 (妊娠 32週 6日) ● 夫の気持ちについて	S) 夫には、気持ちは言えています。民間療法でやりたい気持ちも言っていて、夫は治療をしてって言っているけど、私は言っても聞かないってわかっているから、あまり強くは言わない。 O) 実両親も他界し兄弟とも疎遠でありキーパーソンは夫のみ。	A) 夫に対して自分の正直な気持ちを伝えることができている関係は良好。夫の本当の気持ちを聞く必要があるも、Oさんは自分のいないところでやりとりされるのを嫌がる。 P) Oさんを通して夫の気持ちを聞いた方がよさそう。
1/20 (34週)	帝王切開施行 児は NICU へ	
産後	産後の経過は良好で、病気に対する自発的な発言なし。授乳などを頑張っている。	
1/28 (産後 8 日目)	MRI：子宮頸部に 4.3cm の腫瘍あり 画像上 II b 期 コルポ診： I b 2 期	
1/28 (産後 8 日目)	主治医より IC②：病状はかわらず治療が必要～カルテより～ O) IC 中は感情失禁あり。病室に戻ってもカーテンを閉め切って話をしようとしなかった。	A) IC 後ショックを受けている。入院中も自然療法の先生からパワーを送ってもらっており、その効果で少し病状は軽快していたと感じている？
1/29 (産後 9 日目)	S) すごくショックです。ゆっくり話をするのはまた今度にしてください。 O) 涙を浮かべながら話されている。	A) 気持ちも混乱している様子。 P) 本人から話しかけてきたときに聞こう。今後の方針についてスタッフとのカンファ。

<p>2/1 (産後11日目)</p>	<p>「話をきいてもらえますか？」と本人より声掛け S) 先生からは、すぐにでも治療をした方が良いといわれました。大学病院はいつでも紹介するって言っていました。でも、まだどうするかは決めていません。退院してから、1度島に帰って、夫と話すつもりでいます。今は授乳でいっぱいっばいで、ゆっくり話せていないし。民間療法の先生にも聞いてみてから決めるつもりです。 O) 感情失禁はなく、はっきりとした口調ではなされる。また、治療・入院について聞かれることが本人の負担になっている様子との情報あり。</p>	<p>A) 治療についてはまだ迷っている発言あるも、民間療法にすると気持ちは固まっている印象。授乳などで忙しい中、自分の病気や治療についても考えることで混乱している様子もあり、治療・入院について聞かれることが本人の負担になっている。 P) 気持ちを整理できるよう話を傾聴。また、本人に聞くのは主治医や担当のみとし、情報共有はスタッフ間で行うよう産科スタッフやNICUへ声かけ。</p>
<p>2/3 (産後13日目)</p>	<p>主治医よりIC③：再度治療方針について S) 迷ってます。 O) 涙を浮かべながら、先生の話聞き、メモを取っている。</p>	<p>A) 混乱はみられるも、メモを取り病気について受け入れている。 P) 本人の気持ちを聞くも、再度治療の必要性を説明。</p>
<p>2/4 (産後14日目)</p>	<p>S) 治療が必要なのはわかっている。命を粗末にしているわけではないし、子供を見るたびに長生きしたいと思っている。でもやっぱり民間療法の先生を信じたい。そして子供が小さいときこそ傍で子育てもしたい。 O) 涙を浮かべながら訴えあり。</p>	<p>A) 迷いあるも、治療の意思なし。母親として、育児を優先したいという気持ちもますます強くなっている。 P) 傾聴。主治医と相談し、治療をしないのであれば退院の方向となる。地域連携室を通して、住んでいるところの保健師へ連絡。社会資源の情報提供やサポート依頼をする。</p>
<p>2/8 (産後18日目)</p>	<p>S) 後悔はありません。 お世話になりました と笑顔みられる。</p>	<p>A) 本人の中では、今のところ治療は行わず、島に帰ることで納得している。病気を治すためには治療が必要であるため、このまま治療をしてほしいが、本人の気持ちも大切。 P) 本人の気持ちを尊重。産後1か月検診は島で受けることとなる。がん健診の予約を取るよう声掛けするも拒否され、本人の希望時に受診という形となる。</p>
<p>3/27</p>	<p>状況をTEL確認 S) 出血もなく体調も変わりありません。 健診は半年とか1年後で考えていて、今のところは検診を受けるつもりはありません。</p>	<p>A) 症状が現れた時には手遅れであることを再度説明するも、納得されず。 P) 数か月後にTEL連絡とする。</p>

【評価】

本人の気持ちに合わせながら、気持ちの整理ができるように話を傾聴したり、看護師として治療の必要性は伝え続けてきた。また、主治医とのカンファレンスやスタッフとの事例検討、NICUとの情報共有などしながら関わっていった。主治医から説明を受けたあとなど治療を迷う発言もみられたが、自然療法を信じるという気持ちは変わらず治療を拒否され退院となった。また、退院後も受診はされず、#1の目標は達成できなかった。